

麻子仁 CANNABIS FRUCTUS



(基 原) 1) 2) 5) 9) 17)

アサ *Cannabis sativa* Linne (Moraceae: クワ科) の果実を乾燥したものである。

別名: 火麻仁・大麻仁・苧実 (ちょじつ)・麻実^{16) 17)}

中国では火麻仁 日本の市場では麻子仁^{13) 14) 17)}

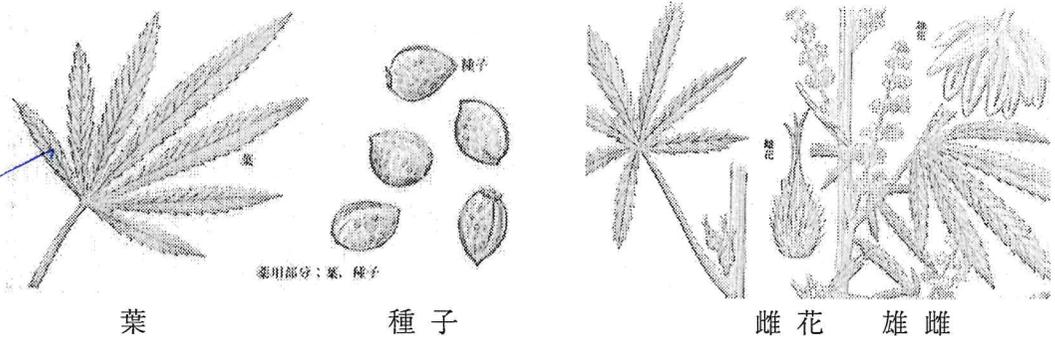
(性 状) 1)

わずかに扁平な卵球形を呈し、長さ4~5mm、径3~4mm、外面は灰緑色~灰褐色を呈する。一端はややとがり、他の一端には果柄の跡があり、両側には稜線がある。外面はつやがあり、白色の網脈模様がある。果皮はやや堅い。種子はやや緑色を帯び、内部には灰白色の胚乳がある。

ほとんどにおいはないが、かめば香ばしく、味は緩和で油のようである。

【 植 物 】 2) 『原色牧野和漢薬草図鑑』より

Cannabis sativa Linne は、中央アジア原産で、古来に渡来し繊維作物のほか薬用、食用として栽培される1年草。形態は草丈1.5~3m。茎は直立し鈍四稜形、葉は対生し、長柄がある。枝先の葉は互生し、掌状5~9深裂、きょ歯縁。花期は夏。雌雄異株で雄花穂は円すい状、雌花穂は短い穂状、そう果は卵円形でやや扁平。



『神農本草経』上品では¹³⁾

「麻蕒」(まふん)は麻の花であり、「麻子」は麻の果実をいっている。

『本草綱目』: 李時珍 (1518-1593) ⁷⁾

雌株を「苧麻」(しょま)、雄株を「枲麻」(しま)といい、また花を「麻勃」(まぼつ) 殻付きの種子を「麻蕒」(まふん)、殻を去った仁を「麻仁」(まじん)と呼んでいた。

(産地) ²⁾ 日本： 栃木・長野・岩手・広島・熊本
 中国： 陝西省・広西自治区
 その他： 韓国、北朝鮮、東南アジア、インド

インドやバングラデッシュで栽培されるアサは、中国や日本の繊維用のアサと似ていますが、成分的に麻酔性の成分である **tetrahydrocannabinol** を多く含み、成分変種としてインドアサ **Cannabis sativa** LINNE var. **indica** LAMARK と呼ばれています。元来日本のアサはこのような麻酔成分を含まなかったようですが、最近では交雑によって麻酔成分を含むものが多くなりました。現在日本では大麻取締法によって厳しく規制されています。 ^{2) 13) 14) 17)}

麻沸散

(品質) ¹³⁾
 粒  がよく充実しており、仁は白色で混じりものがないものが良品。

--- 東医研では、中国（陝西省）産の麻子仁（ツムラ）を砕いて用いています。 ---
 栽培：春播種 種管理 種子繁殖 栽培年数1年
 収穫：7月中、下旬に地上部を刈り取り、天日乾燥し、たたいて種子を落とし、すぐ火で炒める
 流通：農民 → 地方公司 → ツムラ合弁会社（選別・再調整） → 輸出 → ツムラ
 保管： → 常温倉庫 定温倉庫 →
 麻薬取締法：日本の港に入ってからもう一度加熱処理をする（発芽防止）

(成分) ^{2) 5) 9) 13) 14) 17)}

種	脂 質：脂肪油(30%)オレイン酸・リノール酸・リノレイン酸・・・潤腸作用
子	糖 質、蛋白質、塩基性物質：トリゴネリン・レシチン・コリン 最近、カフェ酸（チランミンアミド類）・・・in vitro で血小板凝集作用
葉	テトラヒドロカンナビノール・・・幻覚作用

<まとめ> ^{2) 17)}

部 位	種 子	未熟花穂を含む枝先および葉	茎
名 称	麻子仁	大 麻	?
成 分	脂 肪 油	テトラヒドロカンナビノール	
用 途	薬用・食用 小鳥の飼料・製油の原料	幻覚物質 (マリファナ・ハシシュ)	繊維

(古 典 ・ 薬 能) ^{2) 15)}

脾を暖め、燥を潤す作用があり、腸を通じ便を利するのである。その薬性薬能は胡麻とよく似ているが、胡麻は養血、益腎の効があり、麻子仁は潤燥、滑腸の作用が強い。

味：甘	性：平	婦経：脾・胃・大腸	薬能：潤腸通便
-----	-----	-----------	---------

17)

『 神 農 本 草 經 』 ^{13) 14)}

麻蕒 (まふん：麻の花) 味=辛 性=平

(原文)「五勞七傷を主治し、多く服するとその人をして鬼を見さしめる。」

(訳) 主として、五勞とって5種類の過勞がもとでおこる病、すなわち久しく歩くと筋を傷つける、久しく視ると血を傷つける、久しく坐ると肉を傷つける、久しく臥すと気を傷つける。久しく立つと骨を傷つける、このようなことによって生じた病や、食傷・憂傷・飲傷・房室傷・飢傷・勞傷・経絡営衛気傷の7傷の無理や不摂生やけがによって生じた七傷の病を治す。しかし、薬とはいっても多く食べ過ぎると鬼をみる。すなわち死んだ人に会うといった幻覚におそわれ令せたり、狂ったように走りまわらせたりする精神異常の状態となる。ただ適当な量を久しく服用していると神人や仙人の境地ともいえる神明に通じ、だんだん身の動きが軽くなってくる。」

麻子 (まし：麻の果実) 味=甘 性=平

(原文)「主補中益気、久服肥健不老。」

(訳) 主として、中すなわち内蔵の機能を補い、元気を益す作用がある。これを久しく服用しているとからだが肥えて健康になり、年をとっても老いさらばえることがない。

『 名 医 別 録 』 ¹⁵⁾

(原文)「主治中風汗出、逐水、利小便、破積血、復脈血、乳婦産後餘疾、長髮、可爲沐薬、久服神仙。」

(訳) 中風で汗が出るのを治し、水気を逐い、小便を利し、積血を破り、血脈、乳婦、産後の餘疾を復す。沐すれば髪を長くし潤し、神人や仙人になれるほどである。

『 本 草 綱 目 』：李時珍 (1518-1593) ¹⁵⁾

(原文)「女人経脈利、調大腸下痢、塗諸瘡癩、殺蟲、取汁煮粥食、止嘔逆。」

『 薬 性 提 要 』：多紀元簡 (1754-1810) ¹⁵⁾

(訳) 脾を暖め燥を潤し、腸を滑らかにする。

『古方薬議』：浅田宗伯（1815-1894）^{5) 15)}

（原文）「血脈を復し、五臓を潤し、大腸の風熱、結澁及び熱淋を治す。」

（訳）血液の循環を滑らかにし、諸臓器の機能や新陳代謝を亢進させ、大腸の炎症、便の停滞および熱によって尿が赤味を帯びたり、熱感を伴う排尿痛のあるものなどを治す。

『新古方薬囊』：（1954）荒木性次¹⁵⁾

（訳）内熱による燥き固まれるを潤しやわらげる。

（薬理）

老人、子供、妊婦等に対する緩和な粘滑性下剤として用いられている。また、糖尿病にも用いられる。¹⁴⁾

血糖下降作用⁷⁾

○アルコールエキスをウサギに経口投与すると、はじめの2時間で上昇し、3時間で正常値に戻り、さらに6時間たつと正常値の73%まで下降した。（中国）

血圧下降作用⁷⁾

○アルコールエキスの乳剤を麻酔したネコの十二指腸内に投与すると、30分後徐々に血圧が下がり始め、2時間後に正常値の半分くらいで一定となり、脈拍、呼吸には著名な変化はなかった。（中国）

○これをラットの腹腔内に2～10g/kg与えると血圧が顕著に下降した。（中国）

○高血圧症患者の臨床試験では5、6週間の投与で血圧が下がり、副作用はなかった。

血小板凝集阻止作用⁵⁾

○ヒト及びウサギ血小板凝集に対して cannabinoids は抑制的に作用する。

神経伝達物様活性作用⁵⁾

○ cannabinoids は感情、記憶、運動、痛みの関係した神経信号と似た活性を示す。

大麻

アサの葉または未熟花穂を少し揉んで発酵させたものを「大麻（たいま）」または「マリファナ」といい、インド方面では「ハシシュ」と称しています。

薬理：幻覚誘発物質である tetrahydrocannabinol が動物に対して硬直性あるいは必要以上の攻撃性など独特の異常行動を起こさせ、しかもその作用は潜在的で回復不能であるという実験が行われています。⁷⁾

<<< 臨床 >>>¹⁴⁾

老人・子供・妊婦等に対する緩和な粘滑性下剤として用いられている。

鎮咳や潤燥、すなわち咳止めや乾いたものに潤いを与える薬である。

<<< 処方 >>>^{2) 5) 14) 17)}

麻子仁丸『傷寒論』

尿のでは良いが、大便が硬く便秘する者に用います。

潤腸湯『万病回春』

虚証傾向の人の弛緩性常用便秘に用いる。また高血圧症、動脈硬化、慢性腎炎を合併した便秘症に用います。

炙甘草湯『傷寒論』

体力が衰え疲れ易い人の動悸や息切れ、浮腫、便秘に用います。

(参考資料)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1) 日本薬局方外規格1898年増補版 | P 7 1 |
| 2) 和漢薬百科図鑑 難波恒雄著 | P 2 0 1 ~ 2 0 2 |
| 5) 生薬ハンドブック ツムラ | P 1 9 1 |
| 7) 漢方製剤の知識 JJSHP, VOL.21, NO.1(1985)「麻子仁」
生薬解説(3)「麻子仁」 | P 7 3
P 1 3 7 ~ 1 4 0 |
| 9) 漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会 | P 5 8 ~ 5 9 |
| 13) 意积神農本草経 小曾戸丈夫 築地書館 | P 1 4 5 ~ 1 5 5 |
| 14) 和漢薬物学 大塚恭男 南山道 | P 2 4 5 |
| 15) 平成薬証論 渡邊武著 P 6 1 0 ~ 6 1 3 | P 6 1 0 ~ 6 1 3 |
| 16) 中薬学 | P 1 7 8 ~ 1 7 9 |
| 17) くすりの事典 | P 3 9 0 ~ 3 9 1 |

漢方特別講座テキスト

生薬解説

麻子仁

日本漢方協会

【生薬の参考資料作成に当たって】

日本漢方協会

一、本講座の生薬解説についての参考のため、本資料を作成した。

二、編集対象の書籍は左記の通りであるが、左記の掲載順序がそのまま編集順序となっている。

なお、編集順序の意図は全体像を参考にするため、日中の局法等を掲載した。次に、古典類を年代順に配列し、最後に中医学の生薬解説書を収載した。また、万病回春解説の中から生薬に関する個所を抜粋し参考に作成した。

(1) 日本薬局法および日本薬局法外生薬規格

(2) 中華人民共和国薬典

(3) 和漢薬百科図鑑〈難波 恒雄 著〉

(4) 神農本草経〈近世・漢方医学書集成53 森 立之〉

(5) 本草綱目〈李 時珍 国訳 本草綱目〉

(6) 本草備要〈王 昂 文光図書公司印行本および寺師 睦宗 訓〉

(7) 薬徴〈吉益 東洞・西山 英雄 訓訳 未収載生薬は近世・漢方医学書集成11 吉益 東洞〉

(8) 古方薬品考〈近世・漢方医学書集成56 内藤 尚賢〉

(9) 新古方薬囊〈荒木 性次 著〉

(10) 漢薬の臨床応用〈神戸中医学研究会 訳編〉

(11) 処方理解のための漢方配合応用および続編〈翻訳 医学研究会 監修 洪 輝騰・根本 光人〉

(註) 万病回春解説〈松田 邦夫 著〉

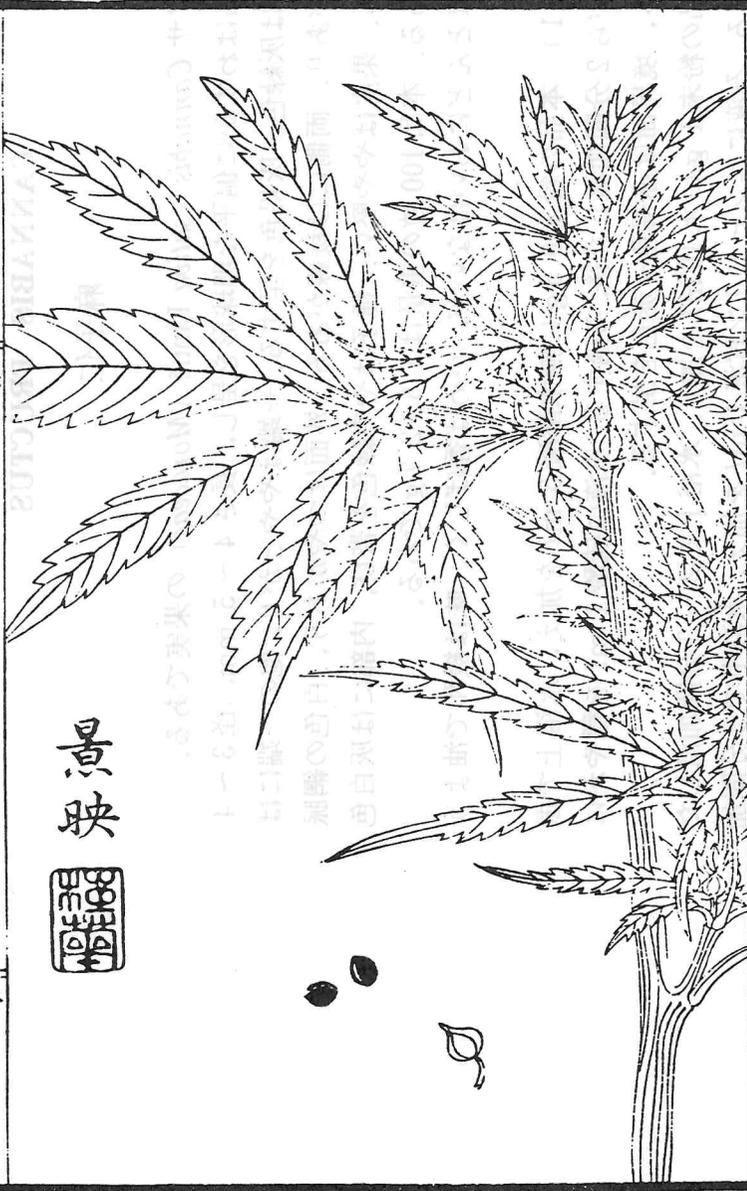
一、全文を収載するとかなりのページ数となるので必要と思われる部分のみ抜粋し編集した。ご了承願いたい。

二、編集の都合上、各原本と掲載位置、順序等が異なる事、また編集の掲載ミス等も予測されるが、この点も併せて

ご理解とご了承を願いたい。お気付きの点があればご指摘願えれば幸いです。

麻子仁

麻子仁



景映



三

マシニン

CANNABIS FRUCTUS

麻子仁

本品はアサ *Cannabis sativa* Linné (*Moraceae*) の果実である。

性状 本品はわずかに扁平な卵球形を呈し、長さ4～5 mm、径3～4 mm、外面は灰緑色～灰褐色を呈する。一端はややとがり、他の一端には果柄の跡があり、両側には稜線がある。外面はつやがあり、白色の網脈模様がある。果皮はやや堅い。種子はやや緑色を帯び、内部には灰白色の胚乳がある。本品100粒の重量は1.6～2.7 gである。

本品はほとんどにおいはないが、かめば香ばしく、味は緩和で油ようである。

確認試験 (1) 本品の粉末0.5 gに無水酢酸5 mlを加え、水浴上で振り混ぜながら2分間加温した後、ろ過する。ろ液に硫酸1 mlを穏やかに加えるとき、境界面は赤褐色～赤色を呈する。

(2) 本品の粉末1 gに水10 mlを加え、水浴上で2～3分間加温した後、ろ過する。ろ液にニンヒドリン試液1 mlを加え、水浴中で3分間加熱するとき、液は紫色～青紫色を呈する。

純度試験 包葉 本品は包葉を含まない。

灰分 7.0%以下。

注 _____

別名として大麻仁、大麻仁を用いてもよい。

火 麻 仁

Huomaren

FRUCTUS CANNABIS

本品为桑科植物大麻*Cannabis sativa* L. 的干燥成熟果实。秋季果实成熟时采收，除去杂质，晒干。

【性状】 本品呈卵圆形，长4~5.5mm，直径2.5~4mm。表面灰绿色或灰黄色，有微细的白色或棕色网纹，两边有棱，顶端略尖，基部有1圆形果梗痕。果皮薄而脆，易破碎。种皮绿色，子叶2，乳白色，富油性。气微，味淡。

【炮制】 火麻仁 除去杂质。

炒火麻仁 取净火麻仁，照清炒法（附录6页）炒至微黄色、有香气。

【性味与归经】 甘，平。归脾、胃、大肠经。

【功能与主治】 润燥滑肠通便。用于血虚津亏，肠燥便秘。

【用法与用量】 9~15g。

【贮藏】 置阴凉干燥处，防热，防蛀。

23—7 麻子仁 (ましにん) CANNABIDIS SEMEN

『神農本草經』の上品に「麻黄」の原名で収載されている。『吳普本草』には「麻子中のにである」とある。中国では現代一般に「火麻仁」と称する。古くは雌株を「苧麻」、雄株を「桑麻」といい、代表的な有用植物であった。『神農本草經』には「五勞七傷を主治し、多く服用するとその人をして鬼を見さしめ、狂走せしめる」とその麻薬性を記している。三国時代の名医華佗が、この植物を主剤にした「麻沸散」を麻酔薬として用いた手術を

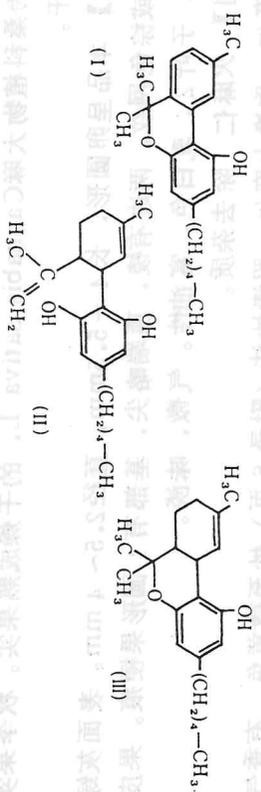
行ったという伝説があるが、「麻沸散」の主剤が、この大麻であったかあるいは曼陀羅花のような *Datura* sp. のものであったかはまだ不明である。大麻はインドでは紀元前9世紀ごろから既に薬用とされており、その後ペルシャやアラビアに伝わったものと思われる。ヨーロッパには17世紀になってから紹介されている。

【基源】 クワ科 (Moraceae) のアサ *Cannabis sativa* L. の果実を乾燥したもの。アサは中央アジア原産の植物で、非常に古くから熱帯、温帯各地で繊維資源植物として栽培されていた。果実は苧実(オノミ)、大麻仁、大麻仁なども称する。

インド、パングラデジュなどで栽培される成分変種インドアサ *Cannabis sativa* L. var. *indica* Lamark は、形態的に本種と酷似するが、葉、特にその腺毛に麻酔性成分である cannabinoids を含み、麻薬として取り締まりの対象となっている。

【産地】 中国、日本、韓国、北朝鮮、東南アジア各国、インドなど。

【成分】 果実には蛋白質約19%、脂肪約30%、その他精油、vitamin E などを含む。*C. sativa* var. *indica* の葉の腺毛中には terpene 系の精油および cannabinoids を含んでおり、その主なものは cannabinol (I), cannabidiol (II), tetrahydrocannabinol (III) である。



【薬味、薬性】 甘。平。

【薬能】 麻子仁には脾、胃、大腸三経の薬物で、腸を潤し、利を滑らかにする。張仲景は「麻子仁丸」で、杏仁、芍薬、枳実、大黄、厚朴を配合し、脾約(脾の働きが制約されること)、便秘を治すのに用いている。すなわち麻子仁は、脾を緩め、燥を潤す作用があり、腸を通じ便を利すのである。その薬性効能は、胡麻とよく似ているが、胡麻は養血、益腎の効があり、麻子仁は潤燥、滑腸の作用が強い。そのため、胃熱、津枯で、腸燥便秘のときは麻

子仁を用い、腎虧（腎をそこなう）、血枯で、腸燥便秘のときには胡麻を用いる。麻子仁は潤燥滑腸を主とし、胡麻は養血滋腸を主とする。

〔用途〕緩下薬として、老人、子供、妊産婦など体力の消耗した人、あるいは大病後の大便秘結して下らない人などに用いる。また鎮咳、潤燥薬としても用いられる。民間では利尿、通経の効があるとして用いられてきたが、今日ではほとんど用いられない。現在麻子仁の大きな用途は、七味唐辛子などの食用、小鳥の飼料、製油原料などである。

〔処方例〕炙甘草湯(126)、麻子仁丸(276)。

麻蕒一名麻勃。味辛平。生川谷。治七傷。利五藏。下血寒氣。多食令人見鬼狂走。久服通神明。輕身。麻子。補中益氣。久服肥健不老。

(一) 牧野云フ、大麻ハ中央亞細亞ノ原生ナレドモ今ハ諸方ニ廣ク栽培セラレテキル、主トシテ其皮ノ纖維ヲ用キ又其實ヲ食用トスル。

(二) 大 麻 (本經上品)

和名 あま
學名 Cannabis sativa, L.
科名 くは科(藜科)

釋 名

大麻(日用) 黄麻 俗の名稱である。漢麻(爾雅翼) 雄を 棠麻(詩疏) 牡麻と名ける。(同上) 雌を 苧麻(同上) 苧麻と名ける。苧の音は字(シ)である。花

(三) 麻ヲ派スルトハ、纖維ヲ分派スルコトナラン。

(四) 補 種子に脂肪約四〇%を含み、沃素価約80、乾性油である。脂肪酸組成は

(七) 木村(康)曰ク、(成分)印度大麻草ノ臭氣ハ甚ダ少量ニ存セル揮發油ニ係ル、而シテ其麻醉性ノ起因スル成分ハ樹脂トス、坊間ニ「カンナビ」又ハ「ハーシ」ト稱スルモノハ、催眠ノ效ヲ有スル樹脂體ヨリ成レル混合物ニシテ、「カンナビリン」ハ又催眠ノ效力アル油狀體トス。又印度大麻草中ニハ「カンナビニン」ナル「アルカロイド」ヲ含有スルトイフモノアレドモ、確實ニ發見セラレタルハ「ムス

を麻蕒と名ける(本經) 麻勃 時珍曰く、麻の字は兩の朮に從ひ广の下に在く、屋下にて(三)麻を派する形を形容したもので、朮は音派(ハ)广は音儼(ケン)である。その

Inoleic acid, linoleic acid, linolenic acid, artemol, tocopherol, カロチノイドも見出されてゐる。Ann.

Index 1961, 81 (野呂)

(一) 補 アサは西バキスタンやアフガニスタン東部に野生しているのを見た。日

本に栽培するのは麻酔性は弱い。インドアサ Cannabis sativa L. var. indica

* Lamarck は、麻酔性が強い。(北村)

他は下記の註を見よ。漢麻と呼ぶわけは胡麻と區別したにある。

麻勃 普曰く、一名麻花。時珍曰く、齊民要術の放勃した時に雄なるものを抜き去れとある文を觀れば、勃とは花であることが明かである。

氣味

【辛し、温にして毒なし】 甄權曰く、苦し、微熱にして毒なし。○ 牡蠣を畏れる。血を行らす薬に入れるには塵蟲しんちゅうを使として用ゐる。

主治

【二百二十種の惡風。黑色になつて全身が癢く苦しむもの。諸風、惡血を逐ひ、婦人の月經不通を治す】(藥性) 【健忘、及び金瘡内漏を治す】(時珍)

(七) 補 インドタイ

tetrahydrocannabinol (Δ-THC) (麻酔作用最強) Δ°

trans-THC (強) cannabidiol (弱)

cannabichromene (同前) cannabinol Claus

6th ed., P. 455 (1970) 精油成分として a-pinene, camphene, β-pinene 等一十二種以上

Canad. J. Chem. 43, 3372 (1965) (野呂)

カリシ、トトリゴネ
リシ、及ビ「シヨリ
ン」ナリ。大麻ニ關
スル研究文獻甚ダ多
ク五十餘種アリ。
食物化學ニヨレバ麻
實ノ養分總量ハ水分
九・九八、粗蛋白質二
一・一八、粗脂肪二
四・五六、粗纖維二
九・三三、可溶無窒物
一・二九〇、灰分二
〇五。

(八) 木村(康)曰ク、
(應用)内用ニハ鎮靜
藥及ビ催眠藥トシテ
應用ス、〇・五—三。

○チ散劑或ハ丸劑ト
シテ與フ、外用ニハ
薰烟劑及ビ卷烟草ト
シテ喘息等ニ吸引セ
シム、藥局法ノ製品
ハ印度大麻丁幾、印
度大麻越幾斯ナリ、
尙あさ實チ大麻仁ト
稱シテ緩和藥トシ、
又乳劑ニ之チ附加シ
又食用トス、ソノ他
ソノ纖維チ麻トシテ
廣ク利用セラルル事
ハ知ラルル如クナ
リ。

麻黃 普曰く、一名麻藍、一名青葛。時珍曰く、これは確かに殻のままの麻子を

いふのである。故に周禮に「朝事の籩に黃を供すとあり、月令に、食麻と大麻とは
食ふべく、黃は供すべし」とあつてやや區別がある。それは殻には毒があるが仁に
は毒がないからである。

氣味

【辛し、平にして毒あり】 普曰く、神農は辛しといひ、雷公は甘しと
いひ、岐伯は毒ありといふ。○牡蠣、白微を畏る。

主治

【五勞、七傷。多く服
すれば人をして鬼を見て狂走せしめる】(本經) 詵曰く、鬼を見やうとするときは、生

麻子、菖蒲、鬼臼等分を杵いて彈子大の丸にし、毎朝日に向つて一丸づつ服し、滿
百日に達すれば鬼を見る。【(九)五臟、下血、寒氣を利し、積を破り、痺を止め、膿を
散ず。(一〇)久しく服すれば神明に通じ、身體を軽くする】(別錄)

(九) 五臟ヨリ寒氣チ
利シ迄ノ一句ハ本經
ノ文ニ屬ス。
(一〇) 久服以下モ本經
ニ屬スル文ナリ。

(1) アサの乾燥果実で生薬市場では「大麻仁」、「大杏仁」、「麻仁」の名称で呼ばれるほか、食用にも供され、わが国では「オノミ」と称し、七

味唐辛子に加えられ、また製油原料とするほか、鳥類の飼料にも用う。(木島)

麻仁

修治

宗奭曰く、麻仁は極めて殻を去り難いものだ。殻を去るには、帛で包んで沸湯中に浸し、冷えてから取り出して井中に水に着かぬやうにして一夜間垂れて置き、翌日の日中に曝乾し、それを新瓦の上で按んで殻を去り、簸ひ扇いで仁を取る。それで粒がみな完全に取れるものだ。張仲景の麻仁丸は、即ちこの大

麻子の中の仁である。

氣味

【甘し、平にして毒なし】 詵曰く、微寒なり、普曰く、先に地中に貯藏したものを食へば死亡する。士良曰く、多く食へば血脈を損じ、精氣を滑し、陽氣を痿す。婦人が多く食へば直ちに帶疾を發す。○牡蠣、白微、茯苓を畏る。

主治

【中を補し、氣を益す。久しく服すれば肥健にして老衰せず、神仙となる】(本經) 【中風で汗の出るを治し、水氣を逐ひ、小便を利し、積血を破り、血脈を復す。乳婦、産後の餘疾。沐すれば髪を長くし潤ほす】(別錄) 【氣を下し、風痺皮頑を去る。人をして心を歡ばしむるには、香しく炒つて尿に浸し、その絞汁を服す。婦人の倒産には、十四粒を吞めば胎兒の姿勢が正しくなる】(藏器) 【五臟を潤ほし、大腸の風熱結燥、及び熱淋を利す】(士良) 【虚勞を補し、一切の風氣を逐ひ、肌肉を長じ、毛髮を益し、乳汁を通じ、消渴を止め、難産に分娩を催す】(日華) 【汁を取つ

て煮た粥は五臓の風を去り、肺を潤ほし、關節不通、髮落を治す【孟詵】「婦人の經脈を利し、大腸下痢を調へる。諸瘡癩に塗れば蟲を殺す。この汁を取つて煮た粥を食へば嘔逆を止める」【時珍】

油 **主治** 【黒く熬り、油を搾つて頭に傅ければ髮の落ちて生えぬを治す。煎

熟して時時に啜れば硫黄毒發の身熱を治す【時珍】○千金方、外臺祕要に記載がある。

(一)補 コムギは、できたものである。
フタツブコムギとタルホコムギとの交配から、西アジアで、

(北村)

葉 **氣味** 【辛し、毒あり】 **主治** 【搗汁五合を服すれば虻蟲を下す。搗

爛して蝸毒に傅ける。俱に效がある【蘇恭】【湯に浸して髮を沐すれば長く潤ひ、白髮が生えなくなる】甄權曰く、葉一握と子五升を共に搗き和して三日浸し、滓を去つて髮を沐す。

黄麻 **主治** 【血を破り、小便を通ずる】【時珍】

麻根 **主治** 【搗汁、或は煮汁を服すれば、瘀血、石淋に主效がある】【陶弘景】

【産難で胞衣の出ぬもの、破血、壅脹、帶下、崩中の止まぬものを治するに、水で煮て服するが效がある】【蘇恭】【熱淋で下血の止まぬを治するに、二十七箇を取つて洗淨し、水五升で三升に煮詰めて分服する。血が止まること神驗がある】【藥性】【根、

(三三)麻ノ下ニ皮字ヲ加フベシ。

及び葉の搗汁を服すれば、毆打の瘀血で心腹が満し、呼吸短きもの、及び腕折骨痛の忍び難きものを治し、いづれも效がある。この物がないうときは麻の煮汁を代用する【蘇頌】○韋宙の獨行方に記載がある。

(即作布之麻俗作火麻潤燥滑腸)

大麻仁



101 麻子仁 (潤ホシ燥ヲ、滑ラカニス腸ヲ)

- ① 甘平滑利。
- ② 脾胃大腸之藥、緩脾潤燥。
- ③ 治陽明病、胃熱汗多、而便難。
- ④ 破積血、利小便、通乳催生。
- ⑤ 又水穀也、亦能治風。

甘平滑利脾胃大腸之藥。緩脾潤燥。治陽明病。胃熱

汗多而便難。三者皆燥也。汗出愈多則津枯而大便愈燥。仲景

之麻仁之甘以緩脾潤燥。破積血。利小便。通乳催生。又木

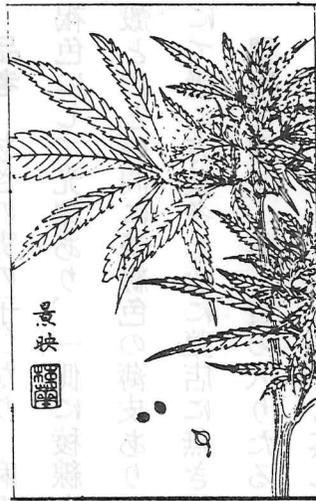
穀也。亦能治風。極難去殼。帛裹置沸湯。待冷懸井

中一夜晒乾。就新瓦上。揅去殼。搗用。畏茯苓白微牡蠣。

⑥ 極^メ難^シ去^レ殼^ヲ、帛^ニ裹^ミ置^キ沸湯中^ニ、待^チ冷^ユラ、懸^ル井中^ニ

一夜^ニ晒乾^ス、就^ケ新瓦上^ニ按^ミ去^リ殼^ヲ、搗^キ用^フ。

⑦ 畏^ル茯苓・白薇・牡蠣^ヲ。



麻子仁

麻子仁丸右一方

麻子益脾^ヲ潤^ニ通^ス便^ス秘^ヲ。一名大麻。

本經曰麻子味甘平。主補^中益^氣。陳士良曰主肺^臟。

潤^ニ五臟^ヲ利^ス大小便^ヲ。案其子晚秋成熟多^シ脂味淡甘^ニ性

潤滑。故有_下益脾胃。潤腸中。滑通便秘之能。

麻子仁丸 跌陽脈浮而瀉。浮則胃氣強。澀則小便秘。

浮澀相搏。大便則難。其脾爲約。

炙甘草湯 治虛勞不足。汗出而悶。脈結悸。行動如常。

麻子仁 ましにん

品考

あさの實の子仁なり。麻の實は先端尖りたる略球形の小實にして外面灰褐色又は暗褐色にして光澤あり、一側に稜線ありて兩面を分かち、内部の仁は白色にして油分に富む。

殻と仁との間に淡綠色の薄皮あり、味は緩和にして油様なり。麻子は藥店よりも鳥の飼料商にて扱ふ方量多し故に藥店に無き場合其處へ行けば大概間に合ふものなり。

撰用と用法

能く實の入りたる品を用ふべし。形粒の大小は問はざるなり。殻を去りて仁

だけを用ふるが定法なれども其れは甚だ困難なり。困難なれども丸藥に内るる場合は非殻を

去るべし。煎藥の場合には便宜上乳鉢にて軽く搗り碎き用ふるも差支へなし。又仁だけに爲

したる品は永く貯ふる時は色赤くなり香味を變ず。故に入用だけ宛殻を剝くが宜し。今古き

書にある脱殻の方法を抄録すれば左の如し。

一定量の麻子を絹の袋に内れ之れを火より下したるばかりの沸湯中に漬し冷えて後一夜井戸の中へ吊り下げて置く時は殻皆割れて中より芽出かかるべし。此を乾かして後軽く板上にてこする時は容易に殻を去る事を得べし。後箕にて扇いで殻を吹き飛ばすなり。麻子は一升位を用ふるが宜し、大量の丸劑を造る時には此法大いに宜し。若し少量しか使わぬ場合には残部の仁、變質の恐れあるより此法は便ならず。

効用 本經に曰く麻子味甘平、中を補ひ氣を益し肥健不老を主どると。ボク曰く麻子味甘平内熱によりて燥き固まれるを潤ほしやはらぐるの効あり。

1 麻子仁 (ましにん)

処方名 大麻仁・麻仁・麻子仁、

基原 アサ科 Cannabinaceae 大麻 *Cannabis sativa* L. (アサ) の成熟果仁を乾燥したものの。

性味 味は甘、性は平。(婦經：脾・胃・大腸經)。

主成分 大量の脂肪油 (約 31%)・精油・タンパク質・ビタミン・lecithin など。

薬理作用 潤腸通便。

緩下作用があり、潤滑性の瀉下薬である。含有する脂肪油が腸壁と糞便を潤滑にし、大便を軟らかくすることによって排便を容易にする。作用はおだやかで、腹痛などの副作用はなく、瀉下のためにも便秘をきたさない。

臨床応用

(1) 習慣性便秘に使用する。胃腸の運動機能が弱いためにおこる気虚の便秘・腸管の水分が減少したためにおこる腸燥便秘のいずれにも用いる。老人・虚弱者・産後の便秘にと

くに適している。麻子仁をくだけ、煮て糊状にし、氷砂糖を加えて胡麻糊状にして服用する。他の潤腸作用のある薬物を配合してもよく、産後の便秘には当帰・柏子仁を、妊娠中の便秘には桂枝仁・杏仁を、陰虚には玉竹を配合する。方剂例、麻子仁丸。

(2) 滋陰補血に、当帰・白芍・生地黄などの補益薬を配合して用いる。古人は経験的に、麻子仁は“久服すれば人を肥健せしめ”、“頭髮は烏潤*となる”としている。現在では麻子仁を補益薬として用いることはほとんどなく、ある種の補益剤(復脈湯など)に麻子仁一味を加えて滋陰潤燥の効果を強めるだけである。分析によれば、麻子仁はタンパク質(約19%)・ビタミンE・leucithineなどの栄養素を含むので、一定の滋補作用もあるはずである。

このほか、つきくだった麻子仁を化膿していない癰に外用すると効果がある。また、金銀花・甘草を配合して煎服すると、胃熱による口内炎に効果がある。分娩時に子宮収縮力が弱いときに麻子仁を服用すると子宮収縮を補助する。

使用上の注意 古人は経験的に、麻子仁を多食すると滑精を生じるのでよくないとしているが、この説の確実性と理論的な根拠については今後の研究に待たばならない。ただし現

* 黒くつややかなこと。

在でも麻子仁を長期間連続して大量に服用はせず、慢性便秘などには毎月3〜4回の服用で十分である。このほか、麻子仁を一度に60〜120g以上服用すると、嘔吐・下痢・甚しいときには昏睡などの中毒症状が生じる、という報告があるので注意しなければならぬ⁽¹²⁾。

用量 9〜18g, 多いときは30〜45g。

方剂例 麻子仁丸(《傷寒論》): 麻子仁15g (研末) 甜杏仁9g 大黃6g 枳実6g 厚朴3g 白芍9g 水煎服あるいは丸剤として用いる。

麻子仁

〔性味帰経〕 性は平，味は甘。脾経，胃経，大腸経に入る。

〔効能〕 1 潤燥滑腸。

本品は甘平潤質の剤で，腸燥を潤して腸を滑らかにする作用をそなえている。従って，多くは津液の枯燥によって起きる便秘の症状に用いられる。また補益作用もあるので，老人，虚証の人，妊婦あるいは産後の津血不足による腸燥の便秘には一層適切な薬物である。

〔配合応用〕

1 麻子仁十当帰

二薬はともに潤燥通便作用があり，配合して用いれば効果は一層良好である。もしこれに降気潤燥作用のある杏仁を加えれば，熱病による津液の枯燥及び老人の津血の欠乏，血虚による便秘を治療することができる。

2 麻子仁十蘇子 蘇子の項参照

3 麻子仁十冬葵子 冬葵子の項参照

4 麻子仁十柏子仁 柏子仁の項参照

〔常用量〕 9g～30g

〔参考〕 本品はアサ科の植物のアサ (*Cannabis sativa* L.) の成熟果仁である。

本品は脂肪油を豊富に含有しており (30%)，腸壁と糞便を潤滑にして大便を軟化し，これを容易に排出させて，緩和にかつ不快感をなくさせる作用をあらわす。